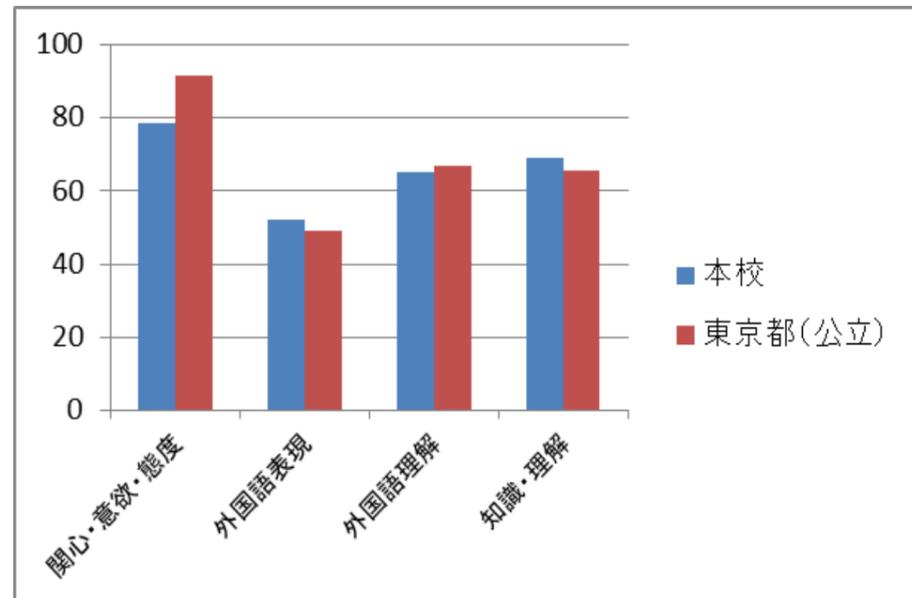


英語（児童・生徒の学力向上を図るための調査）

1 観点別の正答率についての分析

(1) 英語A：教科の内容



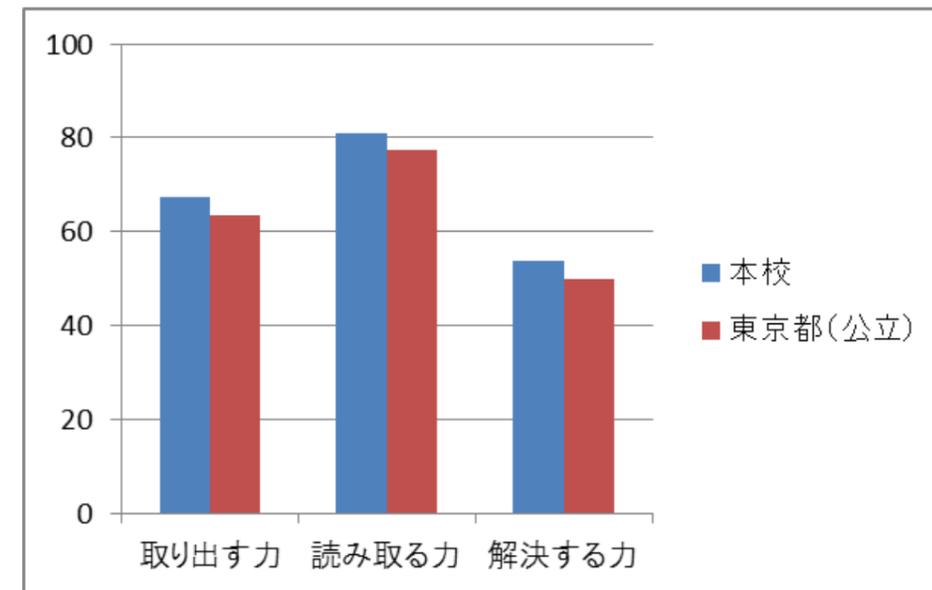
- ① 関心・意欲・態度については、東京都の正答率と 10%以上差があるものの、江戸川区の正答率(75.4%)と比較すると上回っている。
- ② その他の三観点については、東京都の正答率に近い。

結果からの考察

「関心・意欲・態度」に関する問題の正答率が 78.3%であることが大きな課題である。この問題の正答率が低かった要因は、英作文への苦手意識や練習不足が考えられる。日頃より書いて表現することへの抵抗を減らし、生徒の「書く」意欲を高め、自信をつけさせる指導が必要である。

他の観点については、継続して総合的な力がつくように丁寧に授業展開を試みていく。特に、「理解」については、「聞く」力や正確に英文から「読み取る」力の向上が望ましい。今後も意識して、問題に取り組むよう指導していく。

(2) 英語B：読み解く力に関する内容



- ① どの力も東京都の正答率を上回っている。

結果からの考察

今回の結果からは、バランスよく力がついていることがわかる。どの問題もある程度の量の英文を読まないと解答に達しないので、日常的に 50 語程度の英文を読み、要旨を捉える取り組みをしていることが、読解力の定着につながったと考えられる。今後も読解力向上の取り組みを継続していく。

2 授業改善のポイント

- (1) 今回の結果を総合的にみると、A：教科の内容と B：読み解く力に関する内容の合計点は、東京都の正答率をわずかではあるが、上回っている。日頃から、英語を使うことを意識して授業展開をしていることがよい結果につながっていると考えられる。よって、今後も英語を使つての授業展開を実践していく。
- (2) 今後は、「英文を書く」力・「聞き取って理解する」力・「英文から読み取る」力の向上を目指して、指導内容と方法を吟味して授業を展開していく。生徒が目的意識をもって、学習活動に取り組めるよう指導を続ける。